

戰史資料

步兵第三聯隊通信中隊(所在地 沖繩縣宮古郡下地村)

調製官 通信隊長 陸軍中尉 中村剛

一、編成裝備關係

八、自己部隊編成人員

六百三十五名

兵

器

九九式短小銃 一二九

三〇年式銃剣 一二九

九三式電話機 二〇

九三式無線機 二

九三式小被覆線 一〇〇

九四式無線機 八

九三式携帶用光機 八

九九式糧食包 七三〇

之職

員

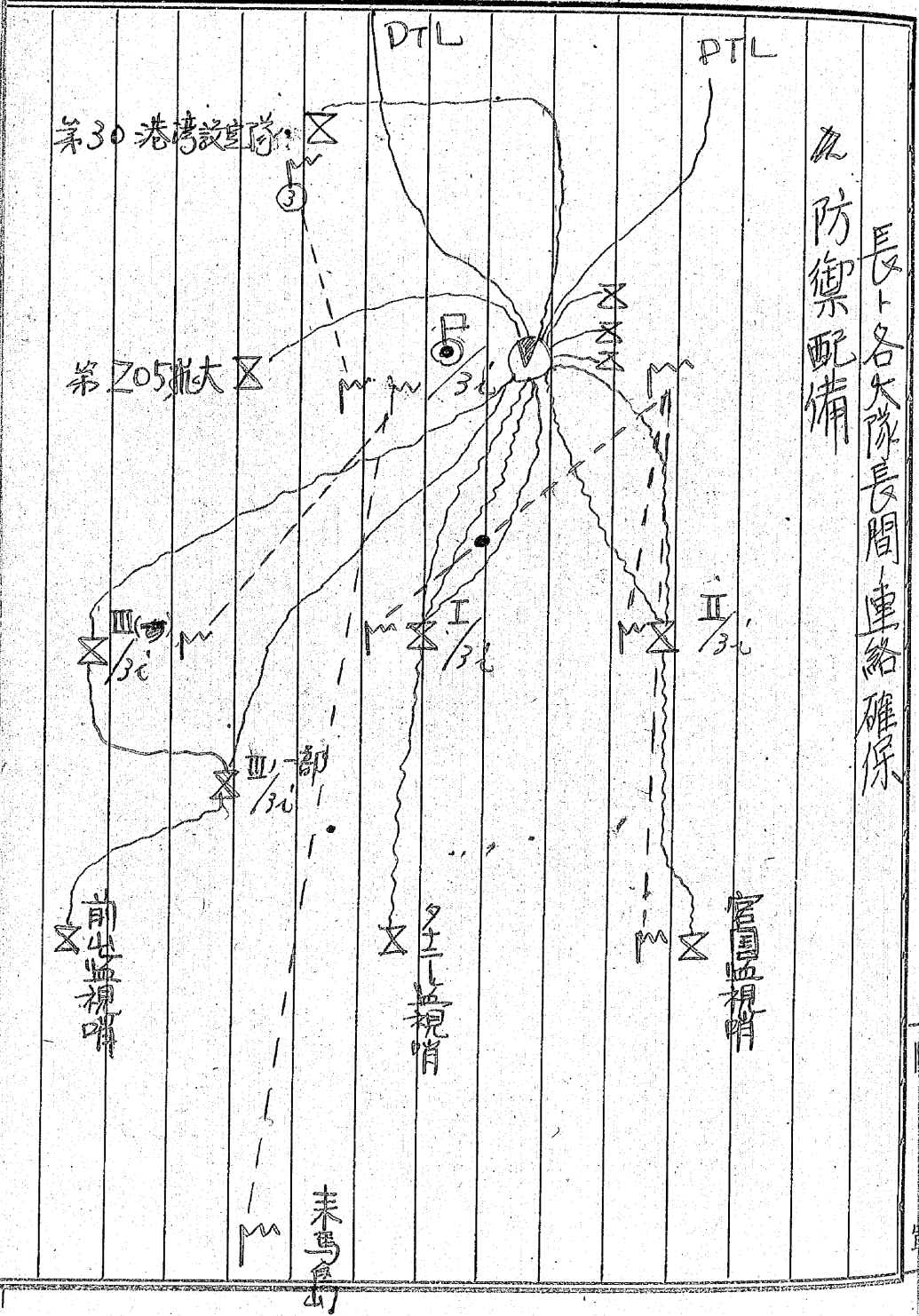
表

中隊長 中尉 長島照雄

第一隊長 少尉 山崎晴海

彈

藥



長上各大隊長間連絡確保
及防禦配備

第一隊長 少尉 神野真一
 3 人員兵器等増減關係
 4 住民使役關係
 二、部隊履歴概要
 昭和十五年十二月 滿洲北安省北安ニ於テ編成
 昭和十六年八月 滿洲國哈爾濱孫家ニ移駐
 昭和十九年四月 滿洲國黑河省納金ニ移駐
 昭和十九年六月二十六日 勅令下命
 昭和十九年八月十四日 沖繩縣宮古島へ上陸 今島防禦
 三 指揮隸屬關係其變遷ノ概要
 當時步兵第三聯隊長ノ隸下ニテ變遷ナシ
 四 作戰準備關係
 一 作戰計畫概要
 方針 敵上陸前後於此ノ海岸監視哨ト、連絡及聯隊

乙陣地概況		第1次	第2次	第3次
イ 起工時期	昭一九八、一六	昭一九、一〇	昭一九、一二	
所要人員	一〇〇〇〇人日	一〇〇〇〇人日	七〇〇〇人日	
使用資材	計五、五〇〇ト 其他五、〇〇〇ト	同上	計三、三〇〇ト 其他一、〇〇〇ト	
ロ 完成時期	五、三〇日	未定	昭二〇、七	
強度	掩壕高四、五米若	掩壕高五、六米若	掩壕高七、一〇米若	
ハ 敵攻撃ニヨリ破壊補修状況				
ニ 関係の事項				
3 作戦準備ニ関スル重要命令内容				
特記スルモノ				
4 軍需品集積状況				
現地自治、状況 昭和二〇年二月頃より現地自治ヲ計畫的ニ開始シ 終戦時 甘藷植付面積 七丁七反 野藜 五反五畝				

ニシテ完全ニ現地自治態ヲ確立シテ
其他特記の項

5 訓練、状況

通信修技ハ上陸前後ヨリ朝夕間稽古トシテ実施スルト
共ニ有線ニ在リテ、实用通信網ニテ所要訓練ヲ行
無線ニ在リテハ、毎週一回分隊諸整演習ヲ実施ス
二〇年三月頃陣地概成スルニ至ルヤ有線共毎週土曜日
ヲ総去訓練日トシ 敵陣下ノ保線、多處洞窟内
ノ器材ノ取扱ヲ演練シ終戦前ニ無線機ハ応用
演習器ノ作製ヨリ 送信機トモ総テ弁電機ニテ実
施シ得ル、状態ニ達セリ

五 戦況

総テ親部隊ハ 歩兵第三聯隊ノモノニシ

六 給養衛生

給養ニ関スル昭和二十年四月上旬迄ハ平時ノ如ク給養シ
 アリシ 尔後逐次主副食共減少セラル。止テ得ルニ
 至ル 最低日量ヲ米ニ五五瓦迄トナシモ 現地自治ノ芋
 及野菜ニシテ之ヲ補フ 復員前ハ 総テ平時ニ復セリ
 衛生ニ関シテ 赤痢及脚気兼營養失調迄ニヨリ斃ル
 ヲモク多ク、ハ名ニ達セリ。 終戦ニシテ月前ヨリ疥癬及
 潰瘍非常ニ流行シ 昭和二十年九月ノ如キハ 全員ノ割
 迄之ガ為 作業困難ヲ来シタルニ 給養復活氣候
 ノ変遷ニヨリ三月迄ニシテ治癒セシメリ

七 終戦ニ係リ歸還ニ至ル迄ノ行動ノ概要

終戦ニ同時ニ防禦地内ノ整備ニ任ズル共ニ 整備通信網ノ
 補完増強ヲ行フニ 現地自治ニ益ニ熱中ス
 九月下旬 兵器奉還 一月上旬 米軍査閲
 二月十九日 中隊長 長島大尉 中隊長 山崎少尉

沖繩へ去来シ、中間廿九月二十五日 元第十野戦
 氣象隊宮古島小隊、中村中尉以下十五名 転居
 シ来ル 二十年一月 菅野技長以下七十六名 沖繩
 行ト決定 二十年一月一日 現有通信網撤收、上
 宮古島初便向ニ移管 今一日 中村中尉以下
 四十五名 エドワード、エベレスト号ニ乗船 今一七日
 浦賀上陸 今一九日 復員

以上